

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛驒特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
--------	---------------------------

評価する領域・分野	学校周知
現状及びアンケートの結果分析等	アンケート結果では、学校周知の項目、教育活動や学習指導にかかわる項目について、おおむね肯定的な評価を得ているが、その中で、教育方針や個に応じた授業の工夫の項目について「よくあてはまる」の割合が減ったり、「あまりあてはまらない」の回答が少数だがあったりした。ホームページ等による教育活動の発信や校外写真展等を継続して実施してきたことで、学校の周知は広がってきたが、児童生徒のニーズは多様化しており、個々のねらいを教職員間で共通理解しながら、主体的に取り組む姿を引き出せるような授業の工夫や、保護者や地域に向け、日々の取組をより具体的に発信する方法を工夫する必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや通信により、当校の教育活動をタイムリーに発信するとともに、QRコードによるホームページの紹介を積極的に行う。 ・ 写真展や作品展の開催、地域行事への参加により、学校周知を図る。 ・ 校外学習や交流学习等により人と触れ合う機会をもち、学校周知を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ等での教育活動の紹介とQRコードの活用 ・ 学習支援部を中心とした、写真展等の計画、実施と開催案内の発信 ・ 校外での活動や居住地校交流、学校間・地域交流の推進 ・ 研究研修部を中心に人と関わる姿を引き出せるような授業の工夫
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの掲載内容と担当者等を決め、計画的に配信する。 ・ 高等部の作業製品を寄付等のお礼や写真展等の場で活用し、QRコードを添付することでホームページの紹介をする。 ・ 写真展等の開催をチラシやポスター等の配布、掲示により広報する。 ・ 学校周辺のお気に入りの場所等を探検マップにまとめて作品展で紹介する。 ・ PTAと連携し地域の芸能発表会で発表し、学校の紹介をする。 ・ 居住地校や近隣の高校と事前打ち合わせを密に行い、感染症等安全面に配慮しながら対面での直接交流を進める。 ・ 人と関わる姿や支援方法を各部だけでなく、関わる教員間で共通理解できるよう、部を超えて活動グループを工夫する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真展や作品展、ホームページ、通信等を通して、保護者や地域の方々に当校の教育活動について理解啓発ができたか。 ・ 校外学習や校内、校外での交流学习など人と触れ合う機会を通して、教育活動の理解啓発ができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部、学年の活動や全校行事等を、通信やホームページで紹介した。 ・ 新たに一か所、作品展の会場を増やし、全校で作成した探検マップを掲示した。学校周知の機会が広がった。 ・ 写真展の広報として、チラシを近隣の店舗等に児童生徒が直接出向いて配布した。また、まちづくり協議会のSNSでも紹介していただいた。 ・ 写真展会場にホームページのQRコードを付けた作業製品のしおりを置き、来場者に持ち帰っていただいた。また、はがきやポチ袋等を、寄付等のお礼として生徒より来校者に手渡し、紹介をした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の芸能発表会に、児童生徒と保護者がPTA活動として参加し、ステージ発表で音楽発表、学校紹介、ボッチャ活動の紹介を行った。 ・居住地校交流では、お互いの学校生活を紹介し合ったり、一緒にゲーム等を楽しんだりできた。近隣の高校との交流では、来校した高校生と風船バレーや読み聞かせ等とおした交流ができた。 ・各部で人と関わる姿を引き出すための個に応じた支援を共通理解し、全校縦割りのグループでの活動を通して、部を超えた関わりにつなげた。
評価の視点	評価
① ホームページや通信等で、保護者や地域の方々に当校の教育活動についてタイムリーに発信することができたか。	(A) B C D
② 写真展等により、学校の教育活動や児童生徒の様子をわかりやすく伝えることができたか。	A (B) C D
③ 交流活動等様々な機会をとらえ、学校周知に努めることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○写真展等の実施やホームページ等での発信を計画的に行い、機会をとらえてホームページを紹介することで、学校周知に努めることができた。</p> <p>○居住地校交流や近隣の高校との交流、地域の方との交流が対面で実施できるようになり、児童生徒や学校での活動を知っていただく機会が増えた。</p> <p>▲学校の認知度は高まったが、より具体的に教育活動の周知を図るために、日々の取組を地域に向け発信する機会や方法を工夫する必要がある。</p> <p>▲特別支援学校としての特色ある教育活動をより充実させる必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや通信等での積極的な発信を継続する中で、児童生徒のニーズに応じた授業の様子や教材教具の工夫等についても発信し、教育内容についての周知を図る。また、そのための教師の専門性の向上を目指す。 ・学校見学会等の機会を捉えて、教育活動の周知を図る。 ・作品展等を継続する中で、広報活動に児童生徒が参加したり、展示した作品の製作過程や活動の意義等を分かりやすく掲示したりすることで、学校や児童生徒への理解が深まるようにする。 ・校外での活動や交流活動等、地域や人と関わる活動を充実させる。

学校関係者評価 (令和5年12月1日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページから、地域へ出ていこうとする様子が伝わってきた。 ・外部の方が参加された活動に関しては、その方々からそのときの感想や意見を聞き、発信することで、学校理解につながるのではないか。 ・居住地校交流について、居住地に行って行う交流だけでなく、居住地の児童生徒が来校して交流することもできるとよい。 ・小・中・高等学校と連携して、空き教室を利用することはできないか。児童生徒が特別支援学校のことを知り、つながる機会になるのではないか。 ・まちづくり協議会では4月に年間の計画を立てる。一緒にできることがあれば聞かせてほしい。良いアイデアがあれば計画できるかもしれない。 ・学校運営協議会の協議内容を他の保護者にも伝え、地域に支えられていることを知ってもらいたい。
